

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所 属： 心理臨床学科

名 前： 恒松聡一郎

ティーチングポートフォリオの作成・更新手順

ティーチングポートフォリオ（TP）は、教育活動の成果や実践を記録し、教育活動を公表するとともに、振り返りや改善に役立てるための重要なツールです。以下に、ティーチングポートフォリオを新規に作成する、または更新する方法を示します。

作成日：2026年6月9日

教員氏名：恒松 聡一郎

所属：人文学部 心理臨床学科

1. はじめに

2024年4月より赴任し、下記の授業を担当している。多様性の尊重が益々重要となってきた昨今の社会において、担当科目の授業を行うことの意義をあらためて感じている。

2. 教育の責任

授業内容について、何より自分自身が学びを止めず、これからの社会を担っていく学生とともに理解を進めていくことが私の責任である。

(1) 授業科目の担当

2025年度は以下の科目を担当した。

科目名	開講年度時期	備考
心理臨床学の基礎	2025年度前期	学科専門必修科目
心理臨床学の展開	2025年度後期	学科専門必修科目
心理学外書購読Ⅲ	2025年度前期	学科選択科目
ジェンダー学	2025年度後期	共通選択科目
質的研究の技法	2025年度後期	学科選択科目

■ 主要授業科目

「心理臨床学の基礎」

心理臨床学科 1 年生の専門必修科目であり、対人援助職を志す上での土台を作ることを目的とした内容になっている。具体的には、対人コミュニケーションの力、専門職としての職業倫理などを教え、職種ごとの特徴についても学んでいく。

「心理臨床学の展開」

心理臨床学科 1 年生の専門必修科目であり、オムニバス形式で教員が研究内容について教授することを目的とした内容になっている。自身が担当の講義回では、人間性心理学の概要とその研究視座について自著論文も引用しながら講義を行った。

「心理学外書購読Ⅲ」

心理臨床学科 4 年生の選択科目であり、心理系大学院の進学を目指す上で必要となる英語文献を読む力を身につけることを目的とした内容になっている。具体的には、心理学に関連する洋書の長文パラグラフの読解、受講生による海外論文のプレゼンとディスカッションなどを行った。

「ジェンダー学」

学科共通・3 年生の選択科目であり、昨今の社会において重要なテーマであるジェンダーについて幅広い観点から学修することを目的とした内容になっている。具体的には、教育（学校）・福祉・労働・スポーツ・性の多様性等におけるジェンダーについて講義し、受講生が自身のジェンダーに関する考えを主体的に探索していくことを主旨に講義を行った。

「質的研究の技法」

心理臨床学科 3 年生の選択科目であり、心理学における質的研究の技法を幅広く学ぶことを目的とした内容になっている。具体的には、インタビュー技法、グラウンデッドセオリーアプローチ、TEM、ライフストーリー、ナラティブ研究、その他質的研究の概念等についての講義を行った。

(2) 教育組織運営

2025 年度は広報委員会に所属し、本学の研究・教育内容が外部（高校生・他機関等）により伝わりやすくなるよう検討を重ねていった。

3. 教育の理念

(1) 理念 1

自らも学びを止めない姿勢

(2) 理念 2

学生にとっての最大限という視点

(3) 理念 3

学生から学ぶ

4. 教育の方法

- (1) 臨床心理学及びジェンダー学は、既存の知識体系だけでも既に膨大な量の内容が蓄積されている。そしてさらに、知識の産出も爆発的なスピードとなっている。そのため、古典と呼ばれる書籍の内容から最新の研究知見までを含めた講義資料を作成している。
- (2) 限界はあるが、学生の学びの度合いをできるだけ数値的な物差しで測らないようにしている。成績評価の対象となる提出物に対しても、意見をどのように踏まえ、どのように修正したかというその学生の学びの過程の部分を重視するようにしている。
- (3) 学生の質疑・感想を募集し、以下の二点を行っている。①学生から質疑・感想を募集する上で、それが合っているか間違っているかという価値判断は絶対にしないということを伝えている。「教員」「学生」というのはあくまでラベリングであり、一人の人間としてそれぞれ異なる価値観を有する。教員が正誤を決めるような構造にしないようにしている。②いただいた質疑・感想に対し、教員なりの回答という形での対話を図っている。このときも、「教員」と「学生」ではなく一人と一人の価値観の共有であるということを伝えている。

5. 教育改善のための努力

(1)改善努力1

課題や提出物へのフィードバックを可能な限り行う。

(2)改善努力2

グループワークやディスカッションの更なる取入れ。

6. 教育の成果・評価

科目受講が学生の学びに繋がったこと、社会の動向に関心を持つようになったこと、協働的・実践的学びとなったことなどの評価をいただいた。

7. 今後の教育に関する課題と目標

今後の課題として、課題や提出物に対するフィードバックの機会を増やすことと、より多くのディスカッションを望む学生と一人で考えを深めたい学生の希望を両立することが挙げられる。よって、講義内容の充実に加え、講義構成の精緻化が今後の目標である。